

（大正12年生まれ）
平成7年3月13日収録 語り手 松原あきさん
のまま帰られませんでし
た。
そういうことがあつ
た。（おじいさんは1歳の
とき）

あらすじ て わが いが はる かの うめ くわん はる かの うめ くわん
年には、あの赤松の木の下で、わが娘の春香が、うめくわんと名づけられた。

松江城の殿さんのお嬢さんが（11歳のある日）
駕籠に乗って大山に詣り
れて、帰りに赤松の池に
寄られました。そして駕
籠の中から出て、その池
の淵まで行って帰られか
けましたが、後帰りをし
てまたその池の中に入
つと入つて行かれたの。

赤松の池の大蛇

(米子市今在家)



イラスト・福本隆男

あい小屋に入つたらその青年もいた。やはり言葉も交わさずお嬢さんは帰つたが、家の中戸口の縁に毎朝濡れた草履くつりがある。毎夜誰かが来るらしいということになり、床山の方へ向かう道を下男が後をつけてみたが見失

「富さん（水若酢神社の宮司・忌部家の屋号）のお嬢さんが中村へ遊びに出た途中、床山の池の畔で夕立にあつた。小屋に入つたところ美青年が本を読んでいたが、あまり言葉は交わさぬうちに、晴れたので、中村で2泊し帰つたが、また夕立にいつ。地区では7月24日に、そこで祭りをしていると「もう一度姿を見せてく」と言つと、今度は蛇の姿になつて出てきたが、それきりで親子の縁が切れてしまい、しかたなく両親も家に帰つたとなつ話だ。

いうかなり規模の大きな物語があるが、スケールが壮大で紹介しきれない（拙著『ふるさとの民話』第3集「隱岐編」・ハーベスト出版など参照されたい）。（このほか同町（旧五箇村）でも「床山の蛇婿」という次の話で知られている。

「床山の主に見初められたから」と言う。みんな一緒に池まで行くと、お嬢さんは水の中に入つて姿が見えなくなつたので、

嬢さんが両親に向かつて「わたしは床山の池に行く」と言うので、聞くと「床山の主に見初められたから」と言う。みんな一緒に池まで行くと、お嬢さんは水の中に入つて姿が見えなくなつたので、

つてしまつた。

いうかなり規模の大きな物語があるが、スケールが壮大で紹介しきれない（拙著「ふるさとの民話」第3集「隱岐編」・ハーベスト出版など参照されたい）。（のほか同町（旧五箇村）でも「床山の蛇婿」という次の話で知られている。

「一宮さん（水若酢神社の宮司・忌部家の屋号）のお嬢さんが中村へ遊びに出た途中、床山の池の畔で夕立にあつた。小屋に入ったところ美青年が本を読んでいたが、あまた言葉は交わさぬうちに晴れたので、中村で2泊し帰つたが、また夕立にあい小屋に入つたらその青年もいた。やはり言葉も交わさずお嬢さんは帰つたが、家の中戸口の縁に毎朝濡れた草履がある。毎夜誰かが来るらしいということになり、床の方へ向かう道を下男が後をつけてみたが見失

「わたしは床山の池に行く」と言うので、聞くと「床山の主に見初められたら」と言う。みんな一緒に池まで行くと、お嬢さんは水の中に入つて姿が見えなくなつたので、「もう一度姿を見せてくれ」と言うと、今度は蛇の姿になつて出てきたが、それきりで親子の縁が切れてしまい、しかたなく両親も家に帰つたといつ話だ。

「赤松の池の大蛇」の話では、この隱岐の島町の「床山の蛇婿」の前半部が略され、後半部が独立した話として伝えられていたと解釈できそうである。